

ポリオワクチン接種についての説明書 (不活化ワクチン)

ポリオ（不活化）の予防接種は法律に基づいて受ける定期接種です。この説明書をよく読んで理解し、十分に医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

〔接種対象者〕

接種時点で大阪市民であり、生後2か月～90か月に至るまで（7歳6か月の前日まで）

〔標準的な接種時期及び回数〕 1回0.5mLを皮下に注射します。

初回接種：20日以上（標準的には56日まで）の間隔をあけて3回

追加接種：初回接種終了後、6か月以上（標準的には12か月から18か月の間隔をあけて1回

1 ポリオ（急性灰白髄炎）の病気

ポリオウイルスは人から人へ感染します。感染したヒトの便中に排泄されたウイルスは間接的に他のヒトの口から入り、咽頭または腸から吸収されて感染します。ウイルスは4から35日間（平均15日）腸の中で増えます。しかし、ほとんどの例は不顕性感染（症状が出ないまま免疫だけができる）で終生免疫（一生免疫をもつ）を獲得します。

症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染し、麻痺をおこすことがあります。（麻痺の発生率は1,000～2,000人に1人）。ポリオウイルスに感染すると、100人中5～10人は、かぜ様の症状を呈し、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれ麻痺が出現します。一部の人はその麻痺が永久に残ります。呼吸困難により死亡する場合があります。

わが国では約50年前までは流行を繰り返していましたが、予防接種の効果で現在は国内での自然感染例は報告されていません。しかし、現在でもパキスタン・アフガニスタンなどの南西アジア、ナイジェリアなどのアフリカ諸国ではポリオの流行があるため、日本に入ってくる可能性もあります。

2 ワクチンの有効性

3種類の血清型（1型・2型・3型）を型別に増殖させたポリオウイルスを不活化し（＝殺し）、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性をなくして作ったものです。このワクチン接種によってポリオ（急性灰白髄炎）による麻痺などを予防します。

製造工程に外国産のウシの血液成分（血清）を使用していますが、本剤接種による伝達性海綿状脳症（TSE）伝播のリスクは理論的に極めて低いと考えられています。（海外でも過去にヒトに伝播した報告例はありません）

3 ワクチンの副反応

ワクチン自体にウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません。国内臨床試験でみられた1週間以内の副反応は、注射部位の症状（赤み・腫脹・痛みなど）、熱（37.5℃以上）などで多くは2～3日で消失します。ただし、非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー様反応（接種後30分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと）、けいれんなどがあります。

4 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

気になることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ア 明らかに発熱している方（通常は37.5℃以上の場合）
- イ 重い急性疾患にかかっている方
- ウ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方
- エ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ア 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患のある方
- イ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ウ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- エ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- オ このワクチンに対してアレルギーをおこすおそれのある方

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ア 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- イ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ウ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- エ このワクチンの接種後に違う種類のワクチンを接種する場合、接種間隔をあける必要はありません。また、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能です。同時接種を希望する場合は医師にご相談ください。
- オ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすめることはやめましょう。
- カ 接種当日は激しい運動はさけてください。

5 予防接種健康被害救済制度

予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になった、あるいは生活に支障をきたすような障害が残ったなど、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。お住まいの区の保健福祉センターにご連絡ください。国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。